

2011-12 年度 ロータリー国際大会に参加して

学友会幹事 吉田政隆

五月の連休に RI 国際大会がタイのバンコクで開催されたので、参加してまいりました。タイという比較的近所で行きやすい国、なおかつ五月連休に重なっているということで、日本からは相当な参加者があったと伺っております。

私が参加したのは本大会ではなく、その前に開催されるプレセッション、平和シンポジウムと学友会記念のイベントです。

RI 財団は国際親善奨学金のプログラムを本部として取りやめ、ピースフェロープログラムに移行していくように見えてましたが、この2つは相反するものでもなんでもなく、元より国際親善奨学金プログラムは RI 財団の世界平和の理念を理解した若者を支えるものでした。そんなわけでピースシンポジウムでも、講演内容やプログラムに違和感を感じることはなく、個々の摩擦から地域、国の摩擦まで、その衝突を取り除き、平和は実現できると信念を持つ人たちとの交流に、未来を感じずにはいられませんでしたし、自分もその中であって国際平和への貢献を再度意識しました。



来年度の RI 財団会長は日本出身の田中作次氏です。田中会長は平和に焦点を当てると宣言をしております。「奉仕を通じて、平和を」3回の世界平和フォーラムが企画されています。バンコクで会ったロータリーの仲間たちに、「次は広島で会おう」と声をかけてまいりました。国際イベントはなかなか敷居が高いように感じる方もいるかもしれませんが、日本で開催されるイベントですので、積極的に参加してもらいたいと思います。

一つ印象的だったのがノーベル平和賞受賞者のレイマ・ボウイ氏でした。

http://www.rotary.org/ja/MediaAndNews/News/Pages/120505_IC12_peacekeynote.aspx

「虐げられて希望を失った女たちや弱者がいた。そんな人々の心に希望をともすことが大切だ。モチベーションを与えることが大切なんです。目的が同じならば、宗教や立場を越え団結をすれば、社会は変革できるというモチベーションを女性らに持たせただけなのです。」モチベーションという言葉に集約される講演だったが、質疑でアメリカ軍属だという人がマイクを持った時に、おそらく彼女はレイマ氏へ反論をしようとしたわけではないのだろうが、「アメリカはアフガニスタンで社会安全（ソーシャルセキュリティ）を維持する努力をしている」という言葉にレイマ氏が噛み付いた「アフガニスタンにどれだけのコストを払ってそのソーシャルセキュリティを目指しているの？ そのソーシャルセキュリティは達成できたの？ そのソーシャルセキュリティを目指すことで、どれだけ市民の安全が達成できたというの？」アメリカは1日に100万ドル単位の費用を支払いながら、市民生活の安全はまったく達成できていないどころか、どんどんすさんだ市民社会を築き、人々のモチベーションは落ち込みきっているという。費用で市民の安全を手に入れるというのなら、1日にその100倍の費用が必要でしょう。本当に必要な平和へのモチベーションを市民に与えるどころか、アメリカ軍はそれを奪っていると指摘した。苛烈とさえ思える言葉だったが、レイマ氏は常に市民一人一人のモチベーションを、団結を意識しているのだということがうかがえた。

今回の世界大会参加では、多くの日本人ロータリアンとも出会いがあった。その縁で8月にはかながわ湘南 RC で講演する機会をくださることになりました。引き続き国際親善奨学生としていただいた経験と、帰国したときの心を忘れずに、多くの人にロータリーの縁の素晴らしさ、その活躍と可能性について伝えていきたいと願っております。

注：写真はロータリーウェブサイトより (<http://www.rotary.org/>)